

米
シヤートル市^國幼稚園保育趣旨及び細目 (千九百十五年制定)

—(承前)—

東洋幼稚園長 岸 邊 福 雄

フレエベルは『無關係とは、無教育の謂なり』
と言つて居る。同情的の指導によれば、兒童に世
の中といふもの、互に相助け合つて居るものであ
る事を、確に悟らしめることが出来る。

兒童は幼稚園のお話、會話、唱歌、遊戯、手工、
散歩、動植物の世話等の練習によりて、如何に總
ての事物が、互に善の爲に働いて居るかを知るの
である。

又兒童は如何に一人の働きが、總ての他の多く
の人々を助くるものであるかを知り、又如何に動
物が、人間の役に立つか、又植物が人間及び動物
の爲になるかを知るのである。

又太陽と水とは、あらゆる生命に必要欠くべか

らざるものなる事を知り、又兒童は、農夫の田畝
に蒔きたる小さき種子が、太陽、雨、及び土地の
助けによりて、パンになるまでの話を知り、又、
雨が太平洋から太平洋へと旅行する話を喜んで聞くで
あらう。

斯くの如くに一步一步注意深く作られたる劃策
によつて、幼稚園は幼兒の無意識時代を指導して、
將來のあらゆる人生の源泉を、意識的に賞鑑する
に至るの時代に引繼ぐのである。

幼稚園の保姆は、日課の準備をなさざる可らざ
るが故に、一年中に授くべき事の全般を測定しな
ければならぬ。これには、先づ一年中の仕事を各
學期に配當し、そして尙此學期に於ける毎日の保

育を、前以て考案して置かねばならぬ。

幼稚園日程の準備は、左の二要目の下に考へられる。

第一、**兒童教育**。其日の總ての課程を注意して

考案する事。兒童教育方面の書籍、雜誌を系統的に讀破する事。育兒法に就いて書かれたる最も有益の雜誌『幼稚園』を毎月注意して熟讀する事。

第二、**自修法**。教師は、毎日己の人格を高からしむる事に注意し、尙、向上的の生活をなし、毎日の義務を遂行し、他人を教ふるに忠實なるべく、益々大なる愛と智識とを確取する様自ら激勵せねばならぬ。さすれば、不言不語の間に、その感化力によつて、兒童を最高の境地にまで導くのである。

博士ウヰリヤム、ハリス氏は、『フレエベルの法式の最大なる功績は、教師に對し深き人生の哲理を供給したるの事實にあるので、彼の多くの教授法

式の如きは、單に教室管理の綱目を供給したるに過ぎないのである』と述べて居る。

○家庭、幼稚園、學校

吾人の家庭は實は家庭のみに止まらずして一方に於ては又同時に學校たらざる可からず、而して兒童はその兩者の間に居らざるべからずと云ふやうなことを考へ始めた人々がある。實に家庭は兒童の爲に家庭と學校との合體したものでなければならぬ。幼稚園は一の特殊學校ではない、幼稚園教育の根底を成して居る主義は言ふまでもなく總ての教育の基礎原理と一致吻合するのである。

幼稚園の保姆は兒童の家庭周圍を知らなくてはならぬ。而して母と教師との間には最も親しき關係の存することを必要とする。或土地に於ては幼稚園教師が毎月二時間兒童の家庭を訪問するの規定を設けて居るが誠に有益なことである。又兒童

の親達の幼稚園に來訪することも獎勵する様に爲さるべきである。

第一、學級學校教師と幼稚園保母は相互にその用ふる課程を熟知することが必要である。之が爲めに兩者は時々打合せを行ふやうにすると効果があるに違ひない、而して第一學級と幼稚園の二組の生徒が遊戯を共にすることもあり、又一緒に散歩に出かける日もあるであらう。かくて上級生徒も時々幼稚園を訪問することによつて益を得ることがあるであらう。

幼稚園に於て兒童に建ること、晝くこと、模倣すること、會話、唱歌、遊戯等を授けるのは皆、兒童の生得の衝動力によるので、それを補助する爲に種々の資料及び問題を供給するのである。智、情、意の發達は兒童の心の自然の開發によつて發達するものであつて、漸次に第一學級の程度に易々と接近する様になるのである。

○會話とお嘸

會話は思想を表示する主要の手段の one であり、且つ思想を形成するに大切なる要素であるから、毎朝なす會話は特に注意吟味すべきである、而して全年を通じてその題目の漸次向上を要する。

會話及びお嘸の爲に着席する前、兒童は教室の近くにて運動するをよしとし、着席して後僅かに指の運動を行はしむるがよろしい。かくして後兒童に靜かに坐つて居ること又會話或はお嘸に注意して居る様にと要求すべきである。此規則に従はざる時は兒童は興味を失ひ易く不注意の惡習をなすに至る。指導會話と自由會話又は自由會話とお嘸の間には兒童は走ること、跳る事及其日の題目を模倣すること等が許さるべきである、又會話の時は註釋の手段によつて家庭と幼稚園との連絡をとるべきである。會話の時間を四部に分つ。即ち

(一) 指導。正規の題目。繪畫。唱歌。詩を用ふ。

(二) 指導、興味ある臨時の題目

(三) 兒童の自由會話

(四) お噺或はお伽詩

(一) 教師は新しき題を紹介し、而して其前の題に於ける關係を説く、而して兒童は新智識と深厚なる同情心とに指導せらるゝのである、教師は質問を試むべきである。而してその質問は正しき簡潔なる語を用ふべく、終りに臨み兒童をして人間の互に相依ること及びそれに對して感謝の念を起さしむる様簡單なる結論をなすべきである。

強き兒童に時を専有させてはならぬ、弱き兒童には特に注意して目をかけてやらねばならぬ、兒童は決して他の兒童の談話をさへぎり邪魔をしてはならぬ、總ての兒童に話す機會を與えてやる、而して兒童は幼稚園に種子、花葉、繪、小石等を携帶することを獎勵せられる。

兒童の言葉に文法の誤ある場合には之を正してやり漸次進歩したる話の出来る様に導いてやる

「はい」「いゝえ」を略する事を許してはいけない。

(二) 各兒童は話す爲に時を與へらるべく、簡單なる禮儀に注意せしむべきである。兒童は如何なる場合にても他人の話し中に割込み妨げをなすこと許されてはならぬ。保母は各兒童の趣味に同情的な態度を取らなくてはならぬ。

(四) お噺或はお伽詩は毎朝之をなすべく、お噺は新しきもの或は既になしたるものにて差支へない、餘りにお話が多過ぎる時は兒童はそれを自己の話とすることが出来ないから不可である。噺と詩の割合は話五十の間に詩十を授けるやうにする。お噺はよく吟味し、且それを上手になすべきである。お噺は單に事實を述るに止まらずして文學的に價值のあることを要する。お噺は同情的且表情的の調子になされなくてはならぬ。而してその種類には、注意深く撰擇した滑稽もの及び卑近な周圍に例を取つた自然界のお噺が澤山ある程よろしい。

○唱歌及遊戲

幼稚園にて用ふる唱歌は簡單にして短かく且つよく吟味されたものでなければならぬ。もし餘りに多數を選出する時は兒童は之等に親炙することが出来ない、之に反して又餘りに少數なる時は種類の少き爲單調をまぬかれないであらう。唱歌を授くる前には歌詞と音楽とを充分に準備練習して置き、保姆が先づ數回之を演奏し、歌つて聞かせたる後に、兒童をして之を歌はしむべきである。保姆は兒童に唱歌を授くる前唱歌に關する趣味を覺醒しなくてはならぬ、例へば唱歌が鳥の唱歌なる時は兒童を散歩に連れ行き鳥の歌ふを聞かせるとか又は兒童に鳥の繪を見させるのである。『唱歌は經驗を説明するの一方方法であるから概言すれば經驗に次ぐか或は之に伴はなくてはならないのである。かくして兒童の經驗したことよりも一層新しく、一層理想的の事を知ること助けなければ

ばならぬ』伴奏は軟かく演ぜらるべく、時々は伴奏なしに唱歌を行うてもよろしい。兒童は軟かに歌ふことを教へらるゝ方がよろしいが、さりとて餘りに弱くして興味のなきは宜しくない。保姆は望む丈の種類を撰出し、日々の題目に關係ある唱歌を用ふべきである。

遊戲時間を表現遊戲及熟練遊戲に分つ。表現遊戲の題目を兒童の心に明にする、その爲め、もし出來得るならば兒童を散歩につれて行き遊戲の題目たる實物に接觸せしむるがいゝ。而して遊戲はなるべく兒童の計畫にまかすべきである。

一定の形式を具へた遊戲ばかりでなく又一定の形式を備へない、手近の周圍を模倣する數多の小遊戲をも採用するがよろしい。兒童は家庭内の仕事を模倣することが出来る、又屋根の上或は山上を越えて飛ぶ鳥を、歸宅して見し事を話す時、模倣することが出来る。又父母の爲に野花を集め、又はクリスマススの木を得る爲めに森の中に遠足す

ることにも出来る。

遊戯中にも世の中の互に相關連し居ること及び互に相依ることを示すやうにする。兒童は常に人の職業を好み、又植物動物の生活を模倣することを面白く思ふ、季節の遊戯を屢々用ゐるがよろしい。秋には樹木の葉は變色して落ち、樹木及花は休憩しやうとする。多くの鳥は暖き所へ行き、風の音や雨滴の音が聞え、幾日も日光を見ないことがある。春には植物界は又忙しく、種子は覺醒しはじめ、鳥は歸つて来る。夏が来る時分になると多くの鳥、蜜蜂、蝶及び花が現はれて来る。兒童は派手な色合の花を集め乍ら鳥の囀るを聞き、又蜜蜂の鳴く聲や木の葉のすれ合ふ音を聞く、暖い風の吹くにつれて、雨滴を見ることが少なくなつて行き日光は毎日見らるゝやうになる。

是等の遊戯はピアノの助けによつて演せらるゝ、時は普通成効するものである。兒童は群に投じて、己の欲する役を擇ぶ。親鸞鳥の歌及嘶は之を芝居

化すると面白い。

兒童全體が一時に演ずることの出来る遊戯を行ふと同時に又少數の兒童によりて演せらるゝものも行ふべきである。全體の兒童が成るべく出来る丈多く毎日出演する様にする。又種々な熟練遊戯表を作つて置くときによろしい——跳廻ること。走け足。飛ぶこと。一足飛。ピョン／＼飛ぶ事等。兒童の總ての筋肉を運動せしむる様に心掛ける。しかし過勞せしめてはいけない。此時間には出來得るならばなるべく窓を開放する方がいゝ。又天氣の許す限りは運動場で演ずると一番よろしい。

『お休み』時間にも常に注意することは又大切なことである。通例保母は此お休み時間の間、低く唱歌し、又は演奏するがよろしい。(ソック)